

報 告

# 山口県の地域産業資源を活用したデザインの実践的研究 その1

## Practical study of design concerning regional industrial resources of Yamaguchi Prefecture Part 1

※1 山口 光

山口県立大学大学院国際文化学研究科 教授

筆者は、2007年4月からの約10年間、山口県内の様々な企業との受託研究や研究創作を通じて、多様な成果物（デザイン作品）を生み出してきた。山口県内には、素材や技術にこだわった企業や工房などが数多くあるが、その一方で、販売に至るまでの展示・広報などには乏しい面も見られた。結果として知名度の向上や経済効果などは得られにくい部分もあった。これらの経験から、現在はデザイン・制作面だけではなく広報・展示等も含めたトータルプロデュースを意識して創作するようになった。

本報告では、山口県の産業を対象としたデザイン・広報・販売・展示について、総合的にプロデュースを行った過程・結果などを報告したい。

For approximately 10 years since April 2007, I have created various works of design through consignment studies with various companies in Yamaguchi Prefecture. In Yamaguchi Prefecture, there are many companies and studios that are particular about materials and techniques, yet it was found that there are also those that perform little exhibition/public relations until the time of product sale. As a result, there were also some for which it is difficult to achieve increased name recognition and economic effects. Based on these experiences, I have initiated total production including not only aspects related to design and production, but also public relations/exhibitions, etc.

In this report, I shall report on the process/results, etc., of comprehensively produced design, publicity, sales, and exhibition for the industry in Yamaguchi Prefecture.

### 1. はじめに

平成29年10月現在、山口県には285種類の地域産業資源が認定されている。「地域産業資源」とは、中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律に基づき、都道府県が指定する以下のものである（注1）。

- ・地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工業品
- ・地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術
- ・文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているもの

これらの基準により選定された地域産業資源は、後世に残して行くべき「地域の財産」であると言えるだろう。その継承・保全に向けて、経済的な産業振興策（デザイン）等も含めながら、基本的には「正しいかたちで後世に地域の文化・資源を伝承して行く」ことが大切である。

本研究の活動を通して、「地域振興の要」となる地域の伝統文化・工芸等を伝えていきたいと考え、特に工芸品に着目したプロダクトデザイン（商品などモノのデザイン）を行って来た。「素材へのこだわりと活用方法」を中心としながら、山口県内における産業・工芸等を例示したい。

## 2. 山口県内におけるプロダクトデザインの事例

山口県内の企業と研究創作を進める中で、その多くが「素材」について強いこだわりを持つように感じられた。著者の経験として、これほどまでに「素材」と向き合う地域は珍しいと思われる。複数以上の企業が「日本では他にない」というような特徴を有していることは驚きであった。

素材・加工技術を中心としながら、以下に3つの代表例を挙げる。

### 2-1.家具におけるデザイン事例

家具製造における事例として、有限会社鳳山堂（山口県山口市）を例示したい。同社は1976年に設立された家具工房であり、現会長である濱田鳳山氏が創業した。現在は二代目にあたる池田満氏が社長となっている。材料・技術ともに妥協を許さない職人気質な姿勢は、山口県内のみならず中国・九州地方に広く知られる存在となっている。

鳳山堂には幾つの特徴があるが、まずは殆どの家具が一枚板（貼り合わせをしていない木の板）から制作されているという事が挙げられる。一般的に家具を購入する場合、サイズや価格・デザイン等が選定の基準となることが多いと思われる。しかし同工房の場合は「鳳山堂の木を使って家具を作って欲しい」という類いの注文が多い。これは材料に対する信頼が企業の価値を形成している事例であり、通常の家具マーケットには見られない特徴だと考えられる。

製造・販売までの体勢にも特徴がある。基本的には直営店（山口県、静岡県に各1店舗）による営業を行っているが、九州・中国地方各地で展示即売会などを主催するかたちでの受注・販売も行っている。老舗の家具工房としては非常に珍しい「積極的な職人集団」だと言えるだろう。

2010年1月より受託契約を締結し、雑貨を中心としたデザインを行っている。基本的なコンセプトは「様々な木目を活かしたデザイン」をすることである。活用する銘木は、材料自体が非常に珍しい木目と風合いを持っている。これらを損なわないようにしながら、現代的なニーズを引き出すことを心掛けた。結果として、自然の模様を損なわないように、あえてシンプルな形状としている。

### 2-2.ガラス食器におけるデザイン事例

萩ガラス（はぎがらす）を制作している有限会社萩ガラス工房（山口県萩市）は、幕末の科学者であった中嶋治平が興した硝子工房をルーツとしている。当初は科学的な実験器具（フラスコ等）を調達する必要性から生まれた工房であった。やがて上質なガラスは食器やグラスとして、朝廷等への贈物や維新志士等にも愛用されて行ったと言われている。幕末の争乱の中で一度は潰えたが、現在の社長である藤田洪太郎氏によって、1992年に復興され現在に至っている。藤田氏はセラミック関連の技術者でもあり、随所に現代的な技術を導入して、全国的に見ても非常に先進的なガラス工房として生まれ変わっている。

筆者は2008年から2016年現在まで、山口県の工芸品である萩ガラスのデザインに参画し、これまでに幾つかの商品を開発している。

萩ガラスは萩市にある笠山の石英玄武岩から精製されており、全国的にも希少な純国産のガラスを使用する工芸品である。また製造・販売元である萩ガラス工房には現代的なセラミック加工の技術も導入されているため、一般的なガラスよりも高温で溶解されているのも特徴だと言えるだろう。

ガラスの原石には鉄分が多く含まれており、溶鉱炉内で1540度以上の高温で還元することから精製されている。ブランドカラーである「透明度の高い上品なグリーン」は、この工程によって生み出されている。また硬質ガラス（カリガラス）でもあるため、一般的なソーダガラス(1200度程度で精製)に比べて5倍以上の硬度を持っている。ハンドメイドのガラスとしては、これ以上の硬度では加工が難しいとも言われている。

デザインを行うにあたり、アピールするポイントが多い反面、何が最も重要なのが伝わりにくいように感じられた。そこで歴史を語るよりも、商品の素材的な優位性・希少性について見えやすいようにデザインをしながら、生活のシーンに溶け込むものとして「純日本産」の良さをアピールするように心がけた。2013年にはURUSHITO GLASS（ウルシトガラス）が完成し、同年のグッドデザイン賞を受賞している。また、2015年には海外へ向けたジャパンブランドの選定制度であるThe Wonder500等にも選定されている。

### 2-3. アルミ板金におけるデザイン事例

2012年、山口県周南地域を管轄する財団法人周南地域地場産業振興センターを通じて、株式会社山下工業所との共同開発を行っている。この地域には新幹線製造に関連した中小企業が点在しており、その中でも山下工業所は車体を板金・製造する中心的な企業である。特に手作業による大型の三次元曲面板金は壮観なものがあり、職人達は黄綬褒章を受賞するなどの高い技術を有していた。同社は1967年、山下清登氏によって創業され、現在は山下竜人氏が社長を務めている。

アルミ板金を中心とした技術力は高く、またクライアントからの発注も途切れることもない。一見すると安定した企業のように思われるが、潜在的に不安な部分も見受けられた。それは跡継ぎの問題である。そもそも取引先が固定的であり営業をする必要がなかったことから、結果として「世間の人に知られる機会」がなくなってしまっていた。そのために就職希望者が集まらず、結果として後継者が育たなくなっていたのである。そこで、会社や技術を世間に知らしめる必要が出ていた。

聞き取りの結果、ハンドメイドによる少量生産であるため、個別のニーズに対応した生産が可能であることが判明した。最近では半導体を製造する装置に内蔵されるメッシュ状の部品も製造しており、予想以上に精密な手加工が行われていた。筆者はそこから発想を逆転させて、製造装置に使われている技術を可視化したいと考えた。

これらから勘案して、技術を見せるためのプロトタイプとして、パソコンのモバイルケースを板金加工により製作することを提案した。あえて高度な加工技術であるメッシュ状のボディによる打ち出し板金を行っている。この際、デザイン業界では先進的なデザイン性を持つApple製コンピューター専用のケースを試作している。

2013年秋には東京デザイナーズウィークに参加し、イタリアなどの海外からのメディアに掲載されることになった。これが契機となり、翌2014年4月には世界最高峰のデザインイベントと言われている「ミラノサローネ」（イタリア）に招待される機会を得られた。

### 3. デザイン活動から見た山口県の産業

筆者が山口県の産業をテーマとしてプロダクトデザインを始めたのは2007年4月であり、現在で10年目となる。県外から見ていた目線と、実際に県内で活動をする実感は、随分と異なる部分があった。

まずは「本物の素材」や「日本では他にない」と言った、製造上のオリジナリティーにこだわる中小企業が多いということである。これは立地や県民性なども影響しているのかも知れないが、その部分で独自性を強化する必要性があったのかも知れない。そしてもう一つには、そのこだわりが、残念ながら人に知られていないという事実である。上記に挙げた3社を例に取っても、そのポテンシャルは計り知れないところがある。実際にデザインした作品を国際展示会などに持って行くと、瞬く間に世界的なニュースになった例もある。

筆者が山口県でのデザインを始めた当初は、純粹に「商品を良くするデザイン」を行っていた。しかし活動を通して、広報・展示・販売までの「人目に触れる部分のプロデュース」が随分と欠落しているように感じるようになった。今では全体の総合的な企画を意識しながら、その中で「プロダクトデザイン」を施すようにしている。これまでの経験として、山口県では「企画プロデュース」と「デザイン」が両立しなければ、本質的なデザインの効果が得られないということが実感である。研究創作、あるいは教育においても、より幅広い領域を横断する必要があるのは間違いないと思われる。

2018年度には、学内に地域デザインに関する研究機関が設立される予定である。一個人では実現できなかった、広報・販売・展示などを横断する「総合的なプロデュース」と、筆者の「プロダクトデザイン」、そして各デザイン分野との連携がどのような結果を生み出すのか、非常に楽しみにしている。

### 引用文献

(1) 山口県「山口県の地域産業資源について」

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16300/keieisienn/chuikisigen.html> 2017年11月12日取得。

いろいろにおいでざわり？

## 木をたのしむ

木には色々な種類があります。  
色・香り・手触りなどで、皆様のお好みの木を探してみてください。

There is a wide variety of woods.  
Try looking for your favorite wood by its color, fragrance, texture etc.



**榎 けゆき**  
日本を代表する広葉樹で、別名ツギ(楨)とも呼ばれる。材は重硬で、耐湿・耐久性に優れており、建築材、家具材、建築材など幅広く用いられてきた良材。長樹齢の材には、玉坐、かすみ坐、泡坐などの美しい模様が見られる。



**樺 たも**  
材の持つ弾力性が生かされて、バットやラケットなどの運動用品材として重用されていたタモ。主に北海道に多く分布している。長寿のヤチダモは美しい味になることもある。家具材、造作材としても使われている。癖のない材。



**楠 くす**  
楠の文字が表わす通り、南国から渡来した木で、日本国内でも関東以南の暖地に多い。日本の巨木ベスト3はすべてこの楠の木。家具材や、彫刻用材として用いられてきた。材や節から樟脳が採取され防虫効果がある。



**桜 さくら**  
日本の春の代名詞。「桜」「サクラ材」として流通している材のいわゆる本桜がこの山桜。樺やミズメも本質的には似ているためサクラと呼ばれる。高級家具材、楽器材、建築材としての用途が多い。材は重硬で、狂いが少ない。



**桐 とち**  
桐は、パリの街路樹マロニエを連想させる。辺心材の境界はわかりづらく、材はやや軽柔。その実は、すりつぶして「とち餅」として食される。材面の絹のような光沢や、黄斑坐と呼ばれる模様は茶道具などで珍重される。



**銀杏 いちじょう**  
馴染みのある銀杏は、雌雄異株で黄色の種子の中の銀杏は食用として使われる。成長が早く高さ30~40メートルにまで大きくなる。材は緻密で美しい。碁盤、将棋盤、珠算の珠、まな板、版木、彫刻材等に利用される。



**杉 すぎ**  
日本特産の代表的な樹種で、日本全体に生育している。材は軽軟で建築用材として最も多く使用されている。その土地の名前が付き秋田杉、天竜杉、吉野杉、日田杉、飯形杉、屋久杉などは有名。その香りも独特である。



**栗 くり**  
食材としてなじみのある「栗」。材が重硬で弾力に富み水に強いので、建築用土台や柱木に使われきた。材にタンニンを多く含むので経年変化が見られる。平均樹齢があまり長くないため大木は少ない。



**松 まつ**  
雄松と呼ばれる黒松と雌松と呼ばれる赤松とある。針葉樹の中では重硬で水に強いとされる。黒松の方が樹脂分も多く坐が大胆。赤松は山口県の県木で、ヤニが多い材は肥料と呼ばれる茶道具や家具に重宝される。



**檜 なら**  
日本の北海道から本州、四国、九州と広く分布するが、寒気候を好む。質・量共に北海道産のものがある。材は重硬で、心材はくすんだ増色をしている。高級家具材、洋酒の樽材、建築材、曲木の材料としても適している。

ひょうじょういろいろ

## 杣もたのしむ

数百年、時には数千年かけて大きくなった銘木には、とても美しい模様が出る場合があります。それを「杣」(もく)と呼び、装飾性が高いため建築の各所や挽物、指物、楽器などに使われて珍重されてきました。同じものが存在しない銘木の世界で、その美しい模様は人々を魅了し続けています。

A precious wood that took hundreds or sometimes thousands of years to grow big has very beautiful wood-grain pattern at times. This is what we call "Moku" which has been highly valued for architectures or artifacts for its excellent decorativeness. The beautiful pattern keeps fascinating people in the world of precious wood where there is no single wood having the same pattern.



**玉杣 たまもく**  
杣に見られる、大きな円形の模様。



**箱杣 たけのこもく**  
これは典型的な板目の杣で、杣を縦に割った様なる山形になった模様



**虎斑 とらふ**  
柾目を横切るような帯状の杣を「斑」と表現するが、それが虎の毛のような模様のこと。



**孔雀杣 くじゃくもく**  
希少材として有名な黒柿の中に多く現れる孔雀の羽のような模様。



**金襴杣 きんらんもく**  
とても派手できらびやかな模様。肥松や杉の老木に見られる珍しい杣。

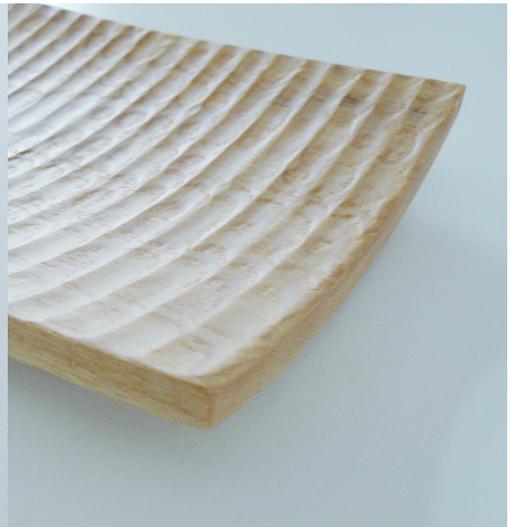


**縮杣 ちぢもく**  
波状に縮んでしわがよったように見える杣。パイオリンなどの楽器に重用される。



kichory <キッコリー>

丸太の曲線を意識した、一枚板のお皿です。  
削り出した刃物の跡を、あえて模様として残してあります。



パレット・カットボード

果物などを切るのに便利なカットボード（まな板）です。  
大きな穴はフックになり、ちょっとした棒や棚に吊り下げられます。  
食材の彩りが、まるで絵を描くパレットのようになります。



木のまま・かるた

大人には木材の見本として、  
子どもには知育玩具として、  
世代を越えてさまざまな遊びが楽しめます。  
かるた・ドミノ・つみき… 色々工夫して楽しみ下さい。

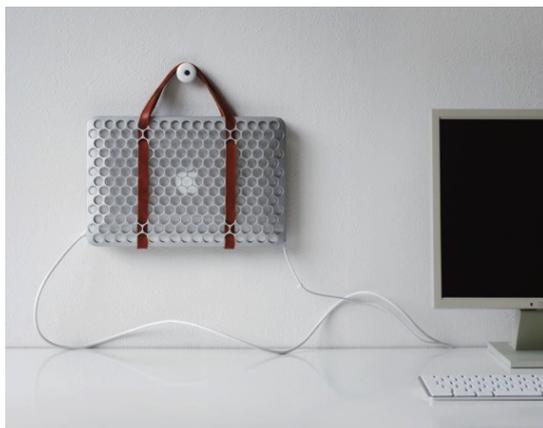
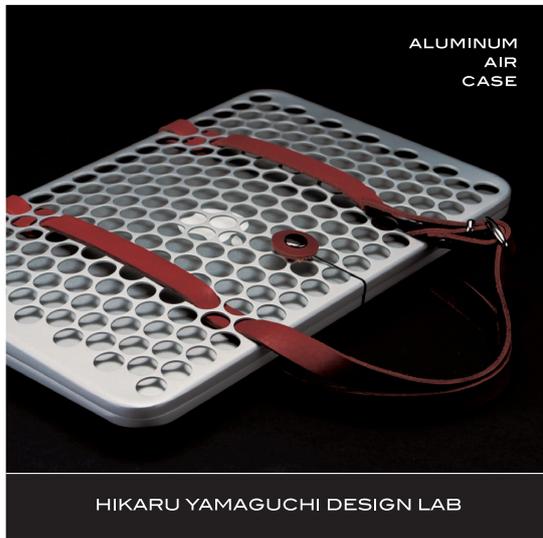


家具工房鳳山堂における商品開発事例（商品パッケージより抜粋）



Urushito Glass シリーズ（2008年から2015年までの開発事例）

萩ガラスと漆器による商品。現代的な用途・空間にも似合う「生活提案型」の商品企画を行った。2013年グッドデザイン賞・2015年 The Wonder 500 等に選定されている。上写真は茶器と蓋つきグラス（シュガーポットとしても使用可）、下写真は酒器。



Aluminum Air Case イメージ（商品リーフレットから抜粋）

打ち出し板金から生まれたパソコンケース。メッシュ状のアルミ板をハンドメイドで加工することは非常に難しいが、技術力をアピールするために敢えてデザインに取り入れた。放熱性が高く、パソコンをケースに入れたまま使用しても熱くならない。



手仕事による新幹線の板金加工

新幹線のボディ等における少量生産に対応するため、ハンマー等によるハンドメイド（打ち出し板金）が行われている。



#### 国際展示会での発表とメディアの反応

東京デザイナーズウィーク・プロフェッショナルエキジビションにて発表した（写真上）。この展示を契機として国内外のメディア等で取り上げられるようになり、2014年4月には、イタリアでのミラノサローネ（写真下）に参加することとなった。